

岡病防第18号  
平成28年9月30日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したの送付します。

平成28年度病害虫発生予報第7号

平成28年9月30日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	トビイロウンカ	—	少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
果樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	<b>やや多</b>
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— 並 — 並 並 — — — — — —	<b>やや多</b> 並 <b>やや多</b> <b>やや多</b> 並 並 やや少 やや少 <b>やや多</b> 並 並
キク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	やや少 並

## 1. 普通作物

(水稲)

### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月26～27日の巡回調査(南部地帯)では、発生を認めず、発生圃場率は平年(25.6%)より低かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(ダイズ)

### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,658頭で平年(1,818頭)並であった。

イ. 9月2～6日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は40.7%で平年(24.2%)より高かった。

ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 平成28年度病害虫発生予察注意報第2号(9月7日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは71頭で平年(91.0頭)よりやや少なく、クサギカメムシは5頭で平年(2.1頭)並、ツヤアオカメムシは169頭で平年(87.4頭)よりやや多かった。

## 3. 野菜

(キュウリ)

### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月23日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(88.7%)よりやや高かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

### 1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容  
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容  
発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月23、27日の巡回調査によると発生圃場率は30.0%で、平年(25.6%)よりやや高かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容  
発生時期 並  
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月23、27日の巡回調査では発生を認めず、平年(9.4%)より低かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

3) 軟腐病

予報内容  
発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月23、27日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が42.9%で平年(25.3%)より高かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(2.4%)よりやや低かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容  
発生時期 並  
発生量 **やや多**

予報の根拠

イ. 9月23、27日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年(7.0%、過去10年のうち7年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生時期 並  
発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は3頭で、  
平年(0.8頭)並であった。
- イ. 9月23、27日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が57.1%、キャ  
ベツでは20.0%でいずれも平年(ダイコン30.9%、キャベツ11.1%)より高  
かった。ハクサイでは10.0%で平年(13.6%)並であった。
- ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされてお  
り、特に発生を助長する条件ではない。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 9月23、27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。
- イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされてお  
り、特に発生を助長する条件ではない。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや少
	モザイク病	やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は399頭で平年(517.4  
頭)よりやや少なかった。
- イ. 9月23、27日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイ、キャベツのいず  
れにおいてもアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年(ダイコン0%、  
ハクサイ2.5%、キャベツ2.5%)より低かった。  
モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年  
(ダイコン13.1%、ハクサイ1.9%)より低かった。
- ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされてお  
り、特に発生を助長する条件ではない。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,658頭で  
平年(1,818頭)並であった。
- イ. 9月23、27日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや多かった。
- ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされてお  
り、特に発生を助長する条件ではない。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 9月23、27日の巡回調査によると発生量は平年並であった。
- イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされてお

り、特に発生を助長する条件ではない。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、  
平年(2.8頭)並であった。

イ. 9月23、27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(5.5%)よりやや低かった。

イ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、  
平年(2.8頭)並であった。

イ. 9月27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月29日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

